



2021年6月  
だいでうしょうがっこうとしょかん  
大道小学校図書館

## あめ かがや あじさい 雨に輝く紫陽花

6月の花といえば、やはり紫陽花が真っ先に思い浮かびます。紫陽花の語源は「あづさい」が変化したものだと言われています。「あづ」は「集」、「さい」は「真藍」、青い花が集まって咲く様子を表しています。かたまりで咲いていても、一輪だけ飾ってもよく映える、そんな花です。

## ほりあきこ 堀明子さんの「詩」のコーナー


皆さんは図書館に堀明子さんの詩のコーナーがあることを知っていますか？明子さんはみなさんと同じ大道小学校で学び、その頃に沢山の詩を書かれました。季節毎に展示が交換されています。美しい写真と一緒に、明子さんの詩の世界を楽しんでください。「紫陽花」の素敵な詩を紹介します。

紫陽花  
あじさい

紫陽花  
あじさい

だれがこんなに  
美しい字を  
あのおじさいに  
あてはめたのだろう  
青むらさきや  
もも色に  
美しく変化する花  
色とりどりに  
さきほこっている  
とても美しい花

「四季の色・堀明子詩集」より



## かだいとしょ しょうかい 課題図書を紹介しす

第67回青少年読書感想文全国コンクールの課題図書が決まりました。参考にしてください。

ていがくねん ぶ ねんせい  
【低学年の部(1・2年生)】



### あなふさぎのジグモンタ

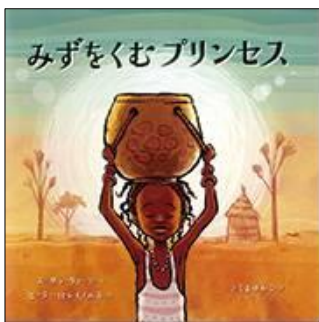
とみながまい/作 たかおゆうこ/絵 (ひさかたチャイルド)

ジグモのジグモンタは「あなふさぎや」。洋服にあいてしまった  
あな しごと たいせつ つか  
穴をふさぐ仕事です。ものを大切に使うって、うれしいよ。もの  
づくりの楽しさも伝える物語です。

### そのときがくるくる

すずきみえ/作 くすはら順子/絵(文研出版)

みんな、きれいな食べものがあるよね。おじいちゃんは「今は  
きれいで、いつかおいしく食べられるときがくるさ」ってい  
うけど、ほんとかな？



### みずをくむプリンセス

スーザン・ヴァーデ/文 ピーター・H・レイノルズ/絵  
(さ・え・ら書房)

あさはやくおきて、ずっととおくまで、きょうもわたしは、  
みず  
水をくみにいく。だれもが、いつでも、きれいであんな  
みず  
水をつかえるようになりますように。いつのひかきつと。アフリカの水くみをす  
る少女の1日をえがいた絵本です。

### どこからきたの？ おべんとう

鈴木まもる 作・絵(金の星社)

みんなの愛情、い〜っぱいつまってる！ おいしいお  
べんとうの中身は、どこから来て、どうやって食べられ  
るようになったの？ わかるかな？



ちゅうがくねん ぶ こうがくねん ぶ うら  
【中学年の部】【高学年の部】は裏へ



ちゅうがくねんぶ ねんせい  
【中学年の部(3・4年生)】



わたしたちのカメムシずかん:

やっかいものが宝ものになった話

鈴木海花/文 はたこうしろう/絵(福音館書店)

くさい虫、カメムシ。みんなで学校のまわりを探してみたら、35種も見つかった。宝石みたいなカメムシもいたよ。どんなずかんができるかな？ 岩手県葛巻町の小学校であった本当のお話が絵本になりました。

ゆりの木荘の子どもたち

富安陽子/作 佐竹美保/絵(講談社)

老人ホーム「ゆりの木荘」には、サクラさんやモリノさんたち、6人のお年寄りが住んでいます。ある春の日、サクラさんがなつかしい手まり歌を歌い始めると、ふたりはなぜか、10歳の女の子にもどってしまいました！ 突然、子どもになってしまったおばあさんたちの、時を超えたファンタジー。



ぼくのあいぼうはカモノハシ

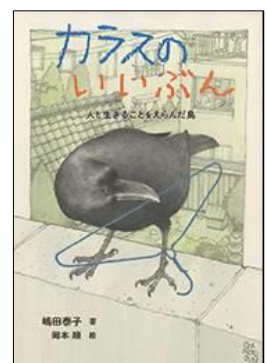
ミヒヤエル・エングラール/作 はたさわゆうこ/訳  
杉原知子/絵 (徳間書店)

ドイツにすむ男の子ルフスは、動物園からにげだしたカモノハシにたのまれ、オーストラリアに帰るのを手伝うことに…！ ゆかいな冒険物語です。

カラスのいいぶん:人と生きることをえらんだ鳥

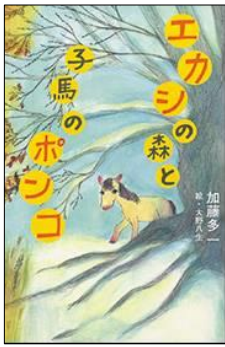
嶋田泰子/著 岡本順/絵(童心社)

カラスには、毎日の時間割があるって知っていますか？ 遊びを発明したり、子そだてをがんばったり……知れば知るほど、カラスっておもしろい！ 知る、調べる楽しさがいっぱい1冊です。





【高学年の部(5・6年生)】



エカシの森と子馬のポンコ

加藤多一/作 大野八生/絵 (ポプラ社)

牧場からにげ、森で気ままにくらす子馬のポンコ。子馬の木・エカシと不思議なカメムシがポンコの友だち。のびやかに日々を過ごし、ポンコがおとなになるようすをやさしいまなざしで描きます。心が自由になる物語です。

サンドイッチクラブ

長江優子/作 (岩波書店)

砂をけずって像を作るサンドアート。スコップ、フォーク、三角定規、ヘアブラシ……いろいろな道具を使って、珠子とヒカルはライバルとの砂像対決にいどみます。小学校最後の夏休み、一歩ふみだす勇気をくれる物語です。



おいで、アラスカ!

アンナ・ウォルツ/作 野坂悦子/訳 (フレーベル館)

転校生のスフェンはパーケルをからかうイヤな男の子。けれど、昔飼っていた大好きなアラスカがスフェンの介助犬だと知ったパーケルは…。生きることへの不安だけではなく、その不安を乗り越える勇気も描いた作品です。

オランウータンに会いたい

久世濃子/著 (あかね書房)

いまだ謎に満ちたオランウータンの生態。食生活、子育て、不思議な習慣、驚きの進化…。さあ、未知の世界をのぞいてみよう! 20年近くオランウータンを追いつける著者が、霊長類研究からわかった未来を作る知恵を、魅力的なフィールドワークを通じて伝えます。

